授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2461 号

Impact of facilities accredited by both adult and pediatric cardiology societies on the outcome of patients with adult congenital heart disease

成人・小児循環器学会認定施設が成人先天性心疾患患者の予後に与える影響

水野　篤（みずの　あつし）

博士（医学）

論文内容の要旨

成人先天性心疾患患者は小児期の治療成績の向上に伴い増加する一方であり、成人先天性心疾患を専門的に診療できる施設が必要とされてきている。成人先天性心疾患患者の診療においては成人循環器内科の知識と小児循環器領域の知識が双方必要であると一般的に考えられているが、日本における診療体制についての研究は不足している。

研究仮説として、成人先天性心疾患患者の予後は施設間に差があると考えた。中でも成人先天性心疾患施設要件として小児循環器学会認定施設かつ、日本循環器学会指定の循環器専門医研修施設・研修関連施設であるという条件は最低限必要であると考えた。

研究方法は日本循環器学会における循環器疾患診療実態調査（JROAD)および診断群分類別包括評価データ（JROAD-DPC データ）を用いて解析を実施した。対象患者は ICD-10 に基づく成人先天性心疾患患者のうち、2013 年 4 月から 2014 年 3 月までの間に入院した 15 歳以上の患者とした。前述の最低限必要と考えた条件を備えた診療施設を minimal essential regional adult congenital heart disease (MER-ACHD) centers と定義した。主要アウトカムは 30 日死亡率とし、MER-ACHD 施設がアウトカムに与える影響に関して、一般化推定方程式を用いて評価した。

結果として、JROAD における登録施設 538 施設の内、65 (12.1%)が MER-ACHD 施設であり、1 年間における総患者数 4,818 人 (46.8% male; age, 50.1 ± 21.4 years)のうち、45.5%が MER-ACHD 施設に入院していた。診断名は心房中隔欠損が約半数(48.1%)を占め、心室中隔欠損、ファロー四徴症、大動脈二尖弁がそれに次ぐ頻度で認められた。年齢、入院様式（緊急入院）などを補正した多変量解析において、MER-ACHD 施設で有意に 30 日死亡率が低いことが明らかになった。［オッズ比 0.986 (95%信頼区間 0.973-0.999)］

心房中隔欠損・心室中隔欠損といった単純型の成人先天性心疾患患者が多く入院されている中、MER-ACHD 施設はそれ以外に比して予後がよい可能性が示された。成人先天性心疾患における施設間での予後の差を評価する報告はほとんど過去にはなく、成人先天性心疾患患者の適切な診療体制における一つの視点を与えるものである。